

1 教科・科目・学年（コース）・科目の種類・履修単位

| | | | |
|-----|-------|------|--------|
| 教科 | 情報 | 年度 | 平成31年度 |
| 科目名 | 社会と情報 | 学科学年 | 普通科 1年 |
| | | 履修単位 | 2単位 |

2 学習の到達目標

- ・情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワークのルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得する。
- ・情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解する。
- ・コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けながら理解するとともに、情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解する。

3 教科書・副教材等

| | |
|-------|--|
| 使用教科書 | 「改訂版 高等学校 社会と情報」 （数研出版） |
| 副教材等 | 「改訂版 社会と情報 サポートノート」 （数研出版） |
| | 「情報モラル テーマ2 1」 （東京書籍） 「ポイントでマスター 基礎から始める情報リテラシー」 （実教出版） |

4 学習する上での留意点

高度情報化社会に移行しつつある現代社会では、益々より便利になってきているとともに、いろいろな問題点も発生してきている。このような社会をよりよく生きるためには、情報リテラシーを身につけることが必要になる。自分が必要とする情報はどれであるかを見抜き、それを主体的に活用する力、また、単に情報を受け入れるだけではなく、社会に有用な情報を自ら発信することで積極的に社会に参画していく態度も求められている。

そのために、授業に積極的に取り組むことはもちろんのこと、自ら課題を見つけ探究し解決していく姿勢が重要である。さらに「情報とは何か」ということをいつも自分に問いかけることが大切である。特に「新聞」は、記事の内容だけでなく、情報の真偽や重要度にも関心を持って読む習慣を身につけてもらいたい。

5 評価

| ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
|--|--|---|--|
| 情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとしている。 | 情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。 | 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身につけ、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱うことができる。 | 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。 |

上記4つの観点から評価する。なお、定期考査の成績は7割、実習における課題レポートや制作作品の内容などについては2割、授業や実習への取り組む様子は1割の配分で総合的に評価するものとする。

6 担当者からの一言

現代社会は国際化・情報化の波が押し寄せ、急速な変化を遂げていくことが予想されます。自分自身で課題を発見し、適切な情報機器を利用してそれを解決していきける能力を身につけてほしいと思います。

| 期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のねらい | 考查 |
|--------------------|---------------------|------------------|--|--|---------------|
| 一学期 | 4 | 序編 情報とメディア | | | |
| | | 第1章 情報とは | 2 | ・情報の意味やはたらきを理解する。 | 期末 考查 |
| | | 第2章 メディアとは | 2 | ・情報を統合する利点と活用方法を理解する。 | |
| | | 第3章 情報のデジタル化 | 2 | ・WWWを使った情報収集の方法やサーチエンジンを使った効果的な情報収集の方法を理解する。 | |
| | 第4章 インターネットの活用 | 3 | | | |
| | 6 | 第1編 情報社会と情報モラル | | | |
| | | 第1章 情報社会の光と影 | 5 | ・情報の信頼性について、今まで起きた問題を具体的にあげ、その問題点などを整理する。 | |
| 7 | 第2章 情報セキュリティの確保 | 5 | ・情報化の影の部分であるコンピュータ犯罪や迷惑メールについて理解し、犯罪に巻き込まれないための注意点などを理解する。 | | |
| | 第3章 情報社会における法と個人の責任 | 5 | ・個人情報保護の重要性を理解する。 ・知的財産権とはどのようなものかを理解し、著作権やプログラムの保護の必要性を理解する。 | | |
| 二学期 | 9 | 第2編 デジタル情報と情報の活用 | | | 期末 考查 |
| | | 第1章 コンピュータのしくみ | 2 | ・アナログ情報とデジタル情報の違いを理解し、デジタル化によって生ずる利点を理解する。 | |
| | 10 | 第2章 情報のデジタル表現 | 6 | ・情報機器の中で情報がどのようにデジタル化されているかを理解する。 ・コンピュータの基本構成を理解し、代表的なソフトウェアである文書作成、画像処理、表計算などの操作方法を理解する。 | |
| | | 第3章 情報の表現と伝達 | 4 | | |
| | | 第4章 プレゼンテーション | 5 | | |
| | 11 | 第3編 情報通信ネットワーク | | | |
| 第1章 コミュニケーション手段の発達 | | 6 | ・電子メールやWWWで情報発信する方法やその場合の問題点などを理解する。 ・通信と情報機器とのつながりを歴史的に理解する。 | | |
| 三学期 | 12 | 第2章 インターネットのしくみ | 3 | ・インターネット上でどのように情報が送受信されているか、電子メールやWWWがどのように情報のやり取りをしているかを理解する。 ・情報通信の重要性、ネットワークの通信方式について理解し、通信を効率化するための圧縮技術について理解する。 ・通信の誤りを検査する方法を理解する。 | 学年 末 考查 |
| | | 第1章 情報システムと人間 | 4 | ・ユーザー認証について理解し、パスワードの注意点を整理する。 ・セキュリティ技術の一つとして暗号について理解する。 ・コンピュータウイルスについて理解する。 | |
| | | 第2章 問題解決 | 5 | ・利用しやすい情報システムについて整理する。 ・問題を解決するための手順や方法について整理する。 | |
| 年間総時数計 | | | 64 | 時間 (55分授業) | |

1 教科・科目・学年（コース）・科目の種類・履修単位

| | | | |
|-----|-------|------|-------------|
| 教科 | 情報 | 年度 | 平成31年度 |
| 科目名 | 社会と情報 | 学科学年 | 普通科学究コース 1年 |
| | | 履修単位 | 2単位 |

2 学習の到達目標

- ・情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワークのルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得する。
- ・情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解する。
- ・コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けながら理解するとともに、情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解する。

3 教科書・副教材等

| | |
|-------|--|
| 使用教科書 | 「改訂版 高等学校 社会と情報」 （数研出版） |
| 副教材等 | 「改訂版 社会と情報 サポートノート」 （数研出版） |
| | 「情報モラル テーマ2 1」 （東京書籍） 「ポイントでマスター 基礎から始める情報リテラシー」 （実教出版） |

4 学習する上での留意点

高度情報化社会に移行しつつある現代社会では、益々より便利になってきているとともに、いろいろな問題点も発生してきている。このような社会をよりよく生きるためには、情報リテラシーを身につけることが必要になる。自分が必要とする情報はどれであるかを見抜き、それを主体的に活用する力、また、単に情報を受け入れるだけではなく、社会に有用な情報を自ら発信することで積極的に社会に参画していく態度も求められている。

そのために、授業に積極的に取り組むことはもちろんのこと、自ら課題を見つけ探究し解決していく姿勢が重要である。さらに「情報とは何か」ということをいつも自分に問いかけることが大切である。特に「新聞」は、記事の内容だけでなく、情報の真偽や重要度にも関心を持って読む習慣を身につけてもらいたい。

5 評価

| ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
|--|--|---|--|
| 情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとしている。 | 情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。 | 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身につけ、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱うことができる。 | 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。 |

上記4つの観点から評価する。なお、定期考査の成績は7割、実習における課題レポートや制作作品の内容などについては2割、授業や実習への取り組む様子は1割の配分で総合的に評価するものとする。

6 担当者からの一言

現代社会は国際化・情報化の波が押し寄せ、急速な変化を遂げていくことが予想されます。自分自身で課題を発見し、適切な情報機器を利用してそれを解決していける能力を身につけてほしいと思います。

| 期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のねらい | 考查 |
|--------------------|---------------------|------------------|--|--|---------------|
| 一学期 | 4 | 序編 情報とメディア | | | |
| | | 第1章 情報とは | 2 | ・情報の意味やはたらきを理解する。 | 期末 考查 |
| | | 第2章 メディアとは | 2 | ・情報を統合する利点と活用方法を理解する。 | |
| | | 第3章 情報のデジタル化 | 2 | ・WWWを使った情報収集の方法やサーチエンジンを使った効果的な情報収集の方法を理解する。 | |
| | 第4章 インターネットの活用 | 3 | | | |
| | 6 | 第1編 情報社会と情報モラル | | | |
| | | 第1章 情報社会の光と影 | 5 | ・情報の信頼性について、今まで起きた問題を具体的にあげ、その問題点などを整理する。 | |
| 7 | 第2章 情報セキュリティの確保 | 5 | ・情報化の影の部分であるコンピュータ犯罪や迷惑メールについて理解し、犯罪に巻き込まれないための注意点などを理解する。 | | |
| | 第3章 情報社会における法と個人の責任 | 5 | ・個人情報保護の重要性を理解する。 ・知的財産権とはどのようなものかを理解し、著作権やプログラムの保護の必要性を理解する。 | | |
| 二学期 | 9 | 第2編 デジタル情報と情報の活用 | | | 期末 考查 |
| | | 第1章 コンピュータのしくみ | 2 | ・アナログ情報とデジタル情報の違いを理解し、デジタル化によって生ずる利点を理解する。 | |
| | 10 | 第2章 情報のデジタル表現 | 6 | ・情報機器の中で情報がどのようにデジタル化されているかを理解する。 ・コンピュータの基本構成を理解し、代表的なソフトウェアである文書作成、画像処理、表計算などの操作方法を理解する。 | |
| | | 第3章 情報の表現と伝達 | 4 | | |
| | | 第4章 プレゼンテーション | 5 | | |
| | 11 | 第3編 情報通信ネットワーク | | | |
| 第1章 コミュニケーション手段の発達 | | 6 | ・電子メールやWWWで情報発信する方法やその場合の問題点などを理解する。 ・通信と情報機器とのつながりを歴史的に理解する。 | | |
| 三学期 | 12 | 第2章 インターネットのしくみ | 3 | ・インターネット上でどのように情報が送受信されているか、電子メールやWWWがどのように情報のやり取りをしているかを理解する。 ・情報通信の重要性、ネットワークの通信方式について理解し、通信を効率化するための圧縮技術について理解する。 ・通信の誤りを検査する方法を理解する。 | 学年 末 考查 |
| | | 第1章 情報システムと人間 | 4 | ・ユーザー認証について理解し、パスワードの注意点を整理する。 ・セキュリティ技術の一つとして暗号について理解する。 ・コンピュータウイルスについて理解する。 | |
| | | 第2章 問題解決 | 5 | ・利用しやすい情報システムについて整理する。 ・問題を解決するための手順や方法について整理する。 | |
| 年間総時数計 | | | 64 | 時間 (55分授業) | |

1 教科・科目・学年（コース）・科目の種類・履修単位

| | | | |
|-----|-------|------|--------|
| 教科 | 情報 | 年度 | 平成31年度 |
| 科目名 | 社会と情報 | 学科学年 | 音楽科 2年 |
| | | 履修単位 | 2単位 |

2 学習の到達目標

- ・情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワークのルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得する。
- ・情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解する。
- ・コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けながら理解するとともに、情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解する。

3 教科書・副教材等

| | |
|-------|--|
| 使用教科書 | 「改訂版 高等学校 社会と情報」 （数研出版） |
| 副教材等 | 「改訂版 社会と情報 サポートノート」 （数研出版） |
| | 「情報モラル テーマ2 1」 （東京書籍） 「ポイントでマスター 基礎から始める情報リテラシー」 （実教出版） |

4 学習する上での留意点

高度情報化社会に移行しつつある現代社会では、益々より便利になってきているとともに、いろいろな問題点も発生してきている。このような社会をよりよく生きるためには、情報リテラシーを身につけることが必要になる。自分が必要とする情報はどれであるかを見抜き、それを主体的に活用する力、また、単に情報を受け入れるだけではなく、社会に有用な情報を自ら発信することで積極的に社会に参画していく態度も求められている。

そのために、授業に積極的に取り組むことはもちろんのこと、自ら課題を見つけ探究し解決していく姿勢が重要である。さらに「情報とは何か」ということをいつも自分に問いかけることが大切である。特に「新聞」は、記事の内容だけでなく、情報の真偽や重要度にも関心を持って読む習慣を身につけてもらいたい。

5 評価

| ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
|--|--|---|--|
| 情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとしている。 | 情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。 | 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身につけ、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱うことができる。 | 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。 |

上記4つの観点から評価する。なお、定期考査の成績は7割、実習における課題レポートや制作作品の内容などについては2割、授業や実習への取り組む様子は1割の配分で総合的に評価するものとする。

6 担当者からの一言

現代社会は国際化・情報化の波が押し寄せ、急速な変化を遂げていくことが予想されます。自分自身で課題を発見し、適切な情報機器を利用してそれを解決していきける能力を身につけてほしいと思います。

| 期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のねらい | 考查 |
|--------------------|---------------------|------------------|--|--|---------------|
| 一学期 | 4 | 序編 情報とメディア | | | |
| | | 第1章 情報とは | 2 | ・情報の意味やはたらきを理解する。 | 期末 考查 |
| | 第2章 メディアとは | 2 | ・情報を統合する利点と活用方法を理解する。 | | |
| | 5 | 第3章 情報のデジタル化 | 2 | ・WWWを使った情報収集の方法やサーチエンジンを使った効果的な情報収集の方法を理解する。 | |
| | | 第4章 インターネットの活用 | 3 | | |
| | 6 | 第1編 情報社会と情報モラル | | | |
| | | 第1章 情報社会の光と影 | 5 | ・情報の信頼性について、今まで起きた問題を具体的にあげ、その問題点などを整理する。 | |
| 7 | 第2章 情報セキュリティの確保 | 5 | ・情報化の影の部分であるコンピュータ犯罪や迷惑メールについて理解し、犯罪に巻き込まれないための注意点などを理解する。 | | |
| | 第3章 情報社会における法と個人の責任 | 5 | ・個人情報保護の重要性を理解する。 ・知的財産権とはどのようなものかを理解し、著作権やプログラムの保護の必要性を理解する。 | | |
| 二学期 | 9 | 第2編 デジタル情報と情報の活用 | | | 期末 考查 |
| | | 第1章 コンピュータのしくみ | 2 | ・アナログ情報とデジタル情報の違いを理解し、デジタル化によって生ずる利点を理解する。 | |
| | 10 | 第2章 情報のデジタル表現 | 6 | ・情報機器の中で情報がどのようにデジタル化されているかを理解する。 ・コンピュータの基本構成を理解し、代表的なソフトウェアである文書作成、画像処理、表計算などの操作方法を理解する。 | |
| | | 第3章 情報の表現と伝達 | 4 | | |
| | | 第4章 プレゼンテーション | 5 | | |
| | 11 | 第3編 情報通信ネットワーク | | | |
| 第1章 コミュニケーション手段の発達 | | 6 | ・電子メールやWWWで情報発信する方法やその場合の問題点などを理解する。 ・通信と情報機器とのつながりを歴史的に理解する。 | | |
| | | 第2章 インターネットのしくみ | 3 | ・インターネット上でどのように情報が送受信されているか、電子メールやWWWがどのように情報のやり取りをしているかを理解する。 ・情報通信の重要性、ネットワークの通信方式について理解し、通信を効率化するための圧縮技術について理解する。 ・通信の誤りを検査する方法を理解する。 | |
| 三学期 | 12 | | 5 | ・ユーザー認証について理解し、パスワードの注意点を整理する。 ・セキュリティ技術の一つとして暗号について理解する。 ・コンピュータウイルスについて理解する。 | 学年 末 考查 |
| | 1 | | | | |
| | 2 | 第4編 望ましい情報社会の構築 | | | |
| | | 第1章 情報システムと人間 | 4 | ・利用しやすい情報システムについて整理する。 | |
| | | 第2章 問題解決 | 5 | ・問題を解決するための手順や方法について整理する。 | |
| 年間総時数計 | | | 64 時間 (55分授業) | | |